



パラダイス・ゲーム
The Paradise Game
(1974) ブライアン・
M・ステイブルフォード (菊地秀行訳)
サンリオ (文庫)
(2/15刊・¥360)

宇宙飛行士グレンジャーの第四作。

惑星フロロス、そこはまさしくパラダイスと思われた。おとなしい原住民、猛獣はおらず、気候も安定している。地球人の保養地として、理想的な世界と思われた。しかし、この「平和」の裏には、恐るべき罠が潜んでいた。病害のないはずのこの星で、病死者が出たのだ……。

今回は謎の究明に話のマトが絞られていて、なかなか楽しめる内容になっている。ただ、やっぱり結末はいま一つ、迫力不足ではないかと思う。

前回は、ちょっと批判的に書きすぎたが、その欠点は、残念ながら本書にも出ている。例えば原住民の扱いが、重要な伏線の一部であるのに、少しおざなりすぎる。存在感が希薄で、地味なのだ。これは、もったいない。アイデアは結構面白いのだから。

本質的には、ステイブルフォードは、シリーズに向いていないのだろう。ベストセラー作家なら、少なくとも、こんなヒネくれた、(しかも共感できない)主人公を、シリーズに持ってきたりはしないはずだ。何か一つ魅力の追加がほしいところだ。